

研究区分	教員特別研究推進 教育推進
------	---------------

研究テーマ	教育用電子カルテを活用した学内実習の学習効果				
研究組織	代表者	所属・職名	看護学部・講師	氏名	管原 清子
	研究分担者	所属・職名	看護学部・准教授	氏名	永谷 幸子
		所属・職名	看護学部・准教授	氏名	山口 みのり
		所属・職名	看護学部・講師	氏名	加藤 京里
	発表者	所属・職名	看護学部・講師	氏名	管原 清子

講演題目	教育用電子カルテを活用した学内実習の学習効果
研究の目的、成果及び今後の展望	<p>【目的】看護学生にとって、臨地実習は、実際の看護現場で日々状態が変わる患者を受け持ちながら学ぶ重要な機会である。しかし、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により臨地実習を規定時間通りに行えない状況が複数年続いている。そこで私たちは、2021年度の臨地実習の補完学習として教育用電子カルテを導入した。しかし臨地実習が中止となったため、実際に臨地で電子カルテを使用した後の学習効果を検証することはできなかった。そのため、本研究では、学内実習に教育用電子カルテを活用することで、実際の臨地実習での情報収集やアセスメントに役立つのか、また臨地実習での電子カルテ操作の不安を軽減することができるのかを明らかにすることを目的とした。</p> <p>【方法】看護学部2年生124名を対象とした。看護アセスメント実習の学内実習に教育用電子カルテを活用して、情報収集およびアセスメントを行った。臨地実習終了時に、教育用電子カルテの活用に関するアンケート調査を実施した。</p> <p>【結果】アンケートの結果、「事前に教育用電子カルテを操作したことは臨地実習に役立ったか」に対しては、84.9%の学生が役立ったと回答した。「電子カルテから収集できる情報が理解できたか」に対しては、83.5%の学生ができたと回答し、できなかったという回答は0%であった。「電子カルテからの情報収集の方法が理解できたか」に対しては、90%の学生ができたと回答し、できなかったと回答したのは3.2%であった。一方、「今後の臨地実習における電子カルテからの情報収集の不安の有無」に対しては、63.4%の学生があると回答した。不安がないと回答したのは15.1%であった。</p> <p>【考察】学生にとって教育用電子カルテの活用は、実習に役立ったと感じ、情報収集の方法を理解して臨地実習に臨むことにつながっていた。臨地実習前の活用により、実際の臨地実習での電子カルテからの情報収集が円滑に進んだと考えられ、一定の学習効果をあげることができたといえる。一方で、依然として63%の学生が「今後の臨地実習における電子カルテからの情報収集に不安がある」と回答していた。このように事前に学内で電子カルテの演習をしたとしても、多くの学生が電子カルテ操作に不安を抱えている現状が明らかとなった。この点については、学生が、自信がつくまで十分に教育用電子カルテで演習できなかったことが一因であると考えた。</p> <p>【今後の課題】2023年度は、これまでの調査結果を踏まえて、実習前に導入する教育用電子カルテの学習効果をあげるために、教材としてのiPadの整備など学習環境をさらに強化して、教育用電子カルテの学内実習での使用による学習効果を継続して検証したい。</p>